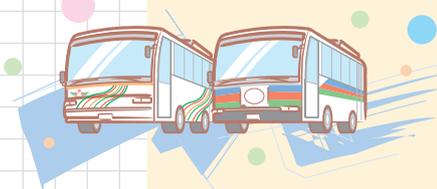


◆ INDEX

- 病院玄関前へのバス乗り入れ開始
- 形成外科外来からのお知らせ
- 患者搬送用自動車の導入
- 看護の日イベントを開催
- 患者満足度調査の結果

【病院玄関前へのバス乗り入れが開始されました】



医療サービス課

患者様をはじめ、付き添いやお見舞いのご家族の方へのサービス向上のため、本院の永年の懸案でありました附属病院玄関前へのバスの乗り入れが、去る4月20日から開始されました。病院前ロータリーの工事期間中は、患者様に多大のご不便をおかけいたしました。ご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。

病院玄関前へのバスの乗り入れは、毎年行っている患者様へのアンケートやご意見箱に寄せられるご意見のなかで数多くの要望としてあげられていたもので、バスを利用されている患者様にとっても念願が叶い、多くの喜びの声を聞くことができました。

また、病院前ロータリーの整備に併せ、身体障害者用の駐車場の拡大および救急車搬送路の見直しを行い、病院玄関前の環境整備がすすめられました。

現在病院玄関前ロータリーには帝産バスと近江バスの2社が乗り入れ、病院前からは瀬田駅方面と南草津駅・県立養護学校方面へのバスが1日200便（時間帯によっては1時間に20便）運行されています。バスの病院構内への出入りに伴い、当初は構内の交通が混乱するのではと心配されましたが、大きな混乱もなく順調に運用されています。しかしながら、自家用車で来院される患者様におかれましては、病院構内の運転には充分気をつけていただきますようお願いいたします。

今後は、患者様へのサービス向上を図るため、リフト付バスやノンステップ型の低床バスの増便についての要望をバス会社に働きかけていきたいと考えています。



形成外科外来からのお知らせ

乳腺一般外科（形成外科担当）助手 張 弘 富



近年、一般市民の外見に関する意識が高まり、以前なら「生命に関わるものではないから」として放置されていた顔面など体表面の疾患や、手術・外傷後の傷跡を、少しでも目立たなくしてほしいという要望が増えています。当院でも、これまで形成外科の非常勤医師により月に2回、診察を行っていましたが、この4月より常勤医師が着任したことにより、外来診察が毎週となり、また大半の手術を当院で実施できるようになりました。

形成外科で扱う疾患には、下記のようなものがあります。

■外傷や手術創の瘢痕の修正

手術創がケロイド状になってしまったり、顔や手足の目立つ部分にある場合に、傷をできるだけ目立たなくなるよう、形成外科的に縫合しなおします。拘縮（ひきつれ）が強い場合には、わざとジグザグに縫い直すこともあります。

また、外傷や病気による皮膚欠損（皮膚潰瘍）の修復や、乳癌切除後の乳房再建なども行います。

■体表面の各種先天奇形

口唇口蓋裂や耳介の奇形、多合指症などの手足の奇形、副乳や臍ヘルニアのような体幹部の先天奇形の形成手術を行っています。幼小児が多いため、見た目ももちろんですが、口や手指のような機能的に重要な部位は、成長に伴って、できるだけ正常な機能を獲得できるように注意しております。

■母斑、皮膚・皮下腫瘍

各種の母斑や、粉瘤、脂肪腫などの皮膚皮下腫瘍の手術も行っています。母斑の種類によっては、手術よりもレーザー治療が適当な場合もありますが、その場合は適切なレーザー治療のできる施設を紹介しています。

■その他

陥入爪、腋臭症、眼瞼下垂、顔面神経麻痺後のつり上げ手術などを行っています。

（注）現在は、美容外科手術（健康保険外の手術）は行っておりません。



患者搬送用自動車の導入について

病院長 森田 陸 司



本院の患者搬送は、従来、消防署の救急車や搬送先病院の持つ患者搬送用自動車に依存してきました。しかし、近隣医療機関にはドクターカー等がかなり導入されており、地区の消防署や関連病院からは本院に対して患者搬送用自動車を導入するよう強い要望がありました。本院ではこのたび地域医療機関との患者受入・搬送をより積極的に行うために、患者搬送用自動車が必要不可欠と考え、7月から導入しました。

今回導入した患者搬送用自動車は高規格の救急車「トヨタハイメディック」をベースに、人工呼吸器、心電図モニター、除細動器、輸液ポンプなどのドクターカーとしての機能を装備したものです。当面は患者搬送車としての運用を行い、虚血性心疾患、脳疾患等の患者様を積極的に医療機関に出向き受け入れ、大学病院としての存在意義を明確にしていきたいと思えます。また、今後、多発外傷などに対応できるドクターカーとしての運用も検討していきたいと考えています。

(注) ドクターカー

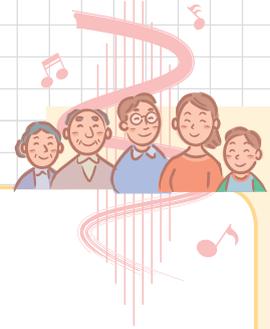
種々の薬剤・器具を装備し、一般の救急車では搬送できない重症者に医師による救命措置等を行いながら搬送するための車。



この患者搬送用自動車は、財団法人和仁会様からのご寄付により実現したものです。財団法人和仁会様に感謝いたします。

看護の日イベントを開催

看護広報活動推進委員会



5月12日は看護の日です。本院でも病院正面玄関で「看護の日」のイベントを開催しました。

午前中は身体計測や栄養・介護・薬剤相談を行い、午後からは「瀬田東ハーモニカクラブ」によるハーモニカ演奏のコンサートを催しました。約150名もの患者様、患者様御家族に参加していただきました。コンサートではハーモニカの懐かしい音色に耳を傾けたり、みんなで一緒に歌ったりと、とても楽しい時間をつくることができました。

今回のイベントには他職種の方にも大勢協力していただき、華やかですばらしい患者サービスを提供することができたと感謝しています。看護部では今後も、1年を通じて患者様に季節を感じていただけるような患者サービスを積極的に進めて参ります。



＊ 季節のイベントの例 ＊

- 3月 ひなまつりコンサート
- 5月 看護の日イベント
- 7月 七夕飾りつけ
- 12月 クリスマスイルミネーション



患者満足度調査の結果について

平成17年11月から12月にかけて実施した患者満足度調査の結果についてお知らせいたします。これは入院・外来の患者様にアンケートに答えていただいたものを集計し、全国の他施設と比較したものです。

全体的な満足度としては、全国での調査参加施設の中において滋賀医科大学の評価は平均よりもやや低い位置にあります。

特に環境設備関係及び外来の待ち時間や職員の接遇に関する満足度についての評価が低くなっています。

環境設備関係の不満については、病院再開発計画の進展とともに徐々に改善される見込みであります。外来診療等の待ち時間の短縮については、再来予約制等の見直しなどさまざまな問題があり、今後の検討課題となっております。

待ち時間が気にならなくなる「待っていただける良い環境作り」も大切になってくると思います。

この調査結果を今後検討し、患者様に満足していただけるようなサービスの向上をはかりたいと考えています。

滋賀医科大学医学部附属病院 理念

「信頼と満足を追求する全人的医療」

滋賀医大病院ニュース第11号

編集・発行：滋賀医科大学広報委員会
〒520-2192 大津市瀬田月輪町
TEL: 077(548)2012(企画調整室)

過去の滋賀医大病院ニュース(PDF版)はホームページでご覧いただけます。

●理念を実現するための 基本方針

- 患者さま本位の医療を実践します
- 信頼・安心・満足を与える病院を目指します
- あたたかい心で最先端の医療を提供します
- 地域に密着した大学病院を目指します
- 世界に通用する医療人を育成します
- 健全な病院経営を目指します